

事業所における自己評価結果(公表)

ANJO ZIHATU

計画年月日:令和6年5月20日

公表:令和6年 6月 1日

事業所名 コットオフライフ安城校

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	●		壁及びカーテンで閉切りをしている	
	2 職員の配置数は適切である	●		法令を遵守した配置を行っている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		●	バリアフリー化できていない	バリアフリー化に向けて、移転なども含めた設備等の再検討を行っていく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	●		毎日の朝と帰りの清掃で清潔感を維持している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	●		定期的に会議を行い振り返ることで、適切な目標を設定することが出来ています。	その都度、職員同士で話し合う機会を設けていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	●		行っている	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	●		行っている	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		●	行っていない	第三者評価の導入に向けて、再検討を行っている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	●		オンラインの研修を活用している	
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	●		通訳を通じて、児童発達管理責任者が行えるようにしている	
	11 子どもの適応行動の状態を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	●		通訳を通じて、児童発達管理責任者が行えるようにしている	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家庭支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの実態に基き項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	●		通訳を通じて、児童発達管理責任者が行えるようにしている	
適切な支援の提供	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	●		通訳を通じて、児童発達管理責任者が確認及び指示ができるようにしている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	●		定例会議にて、お互いがアイディアを出している	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	●		定例会議にて、お互いがアイディアを出している	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	●		タ方に個別支援を提供し、個別に対応している。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	●		始業時にミーティングを実施	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	●		支援終了後に実施	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	●		支援終了後に実施	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	●		ご利用者面談時に実施(最低、6か月に1回実施)	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
児童発達支援事業所のサービスの担当者会議にその子どもの状況に精通した人もふまわっている	21	●		原則、児童発達支援管理責任者が参加している。	
	22	●		原則、児童発達支援管理責任者とスタッフリーダーが連携して支援を行う。	
	23	●		原則、児童発達支援管理責任者とスタッフリーダーが連携して支援を行う。	左記、もっと活発な交流支援を行えるように再検討を行っていく
	24	●		医療連携機関やその他の医療関係機関に定期的に電話連絡を行う	
	25	●		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	
	26	●		移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	
	27	●		定期的な電話にて助言を受けている。	左記、開催の研修などに積極的に参加する体制を構築する。
	28		●		左記と連携時に、交流する環境を整えていくよう、働きかけを行う。
	29	●		児童発達支援管理責任者が会議への参加を行っている。	
	30	●		ご自宅への送迎時や、保護者面談を通じて行っている。	
保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家庭支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	31	●		土曜日に随時実施している。	左記、開催日を増やせるように努力を行う
	32	●		運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	
	33	●		初利用日当日までに必ず説明および同意をいただいている。	
	34	●		定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	
	35	●		原則、土曜日に開催している。	父母の会や保護者会などを積極的に開催するようにする
	36	●		随時、対応を行っている	左記、新規のご利用者様にも再周知を行う。
	37	●		日々の連絡帳にて記載を行っている	フェイスブックなどSNSを活用し、情報発信を行っている。
	38	●		行っている	
	39	●		連絡を通じて、児童発達支援管理責任者が行えるようにしている	
	40		●	行えていない	地域の社会資源と連携し、地域貢献を目指していく
非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っている	41	●		マニュアルを整備し、年二回以上の避難訓練などを実施している。	ポルトガル語のマニュアルの整備を進めていく。
	42	●		マニュアルを整備し、年二回以上の避難訓練などを実施している。	ポルトガル語のマニュアルの整備を進めていく。
	43	●		受け入れ時にアセスメントを行っている。	
	44	●		受け入れ時にアセスメントを行っている。	
	45	●		行っている	ポルトガル語のマニュアルの整備を進めていく。
	46	●		市町村等が開催する外部研修に積極的に参加している。	ポルトガル語のマニュアルの整備を進めていく。
	47	●		行っている	ポルトガル語のマニュアルの整備を進めていく。

〇この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。